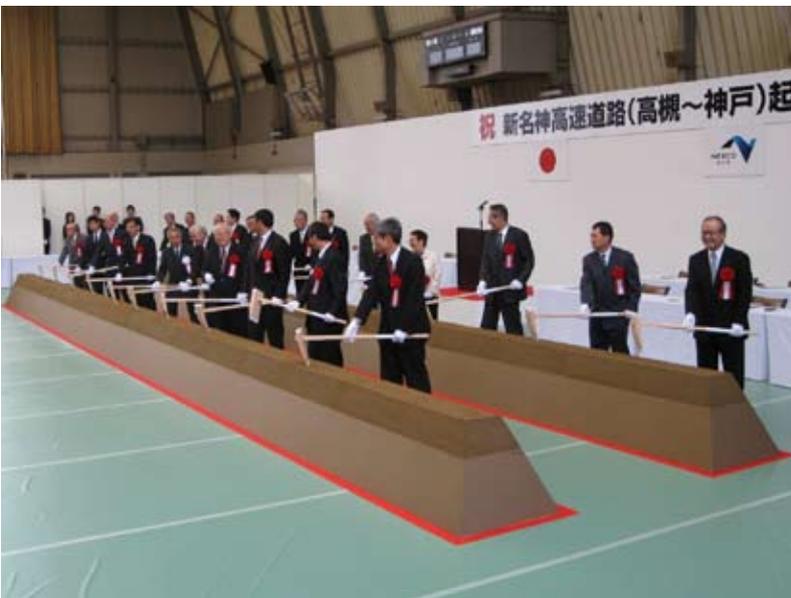


新名神高速道路（高槻～神戸間）起工式 記念号（2010.1）



新名神高速道路（高槻～神戸間 約40.5km）の工事着手を記念し、平成21年12月12日に池田市の総合スポーツセンターで起工式が行われました。

式典には、井戸敏三 兵庫県知事、小河保之 大阪府副知事、安部正一 関西経済連合会広域基盤整備委員長、地元選出の国会議員、沿線の市長、町長そして地元自治会長等関係の皆様の総勢約240名の出席を賜ることができました。

冒頭の挨拶に立ったNEXCO西日本の石田会長は、「本日は大安吉日で晴れ、そして12月12日の“いちに、いちに”とまさに起工式にふさわしい日」、「関係機関・地元の皆様方の協力を頂ければ、予定より2年前倒しの平成28年度の完成が可能、施工各社とともに無事故無災害で完成させたい」と決意を述べました。

来賓祝辞、工事状況報告の後、主催者と来賓、施工関係者らで写真のとおり鍬入れが行われました。鍬入れでは、井戸知事ほか皆様の力強い鍬入れを見ることができました。

厳しくも
地域の期待
ようやく来たり
新名神いく
冬景色
兵庫県知事 井戸 敏三

NEXCO西日本 代表取締役CEO 石田 孝 挨拶

皆様のご支援・ご協力を頂きながら、平成28年度供用を目指す



本日は大安吉日、12月12日の“いちに、いちに”とまさに起工式にふさわしい日取りで、天候も晴れということでの新しいスタートです。昨年度、兵庫工事事務所の設立段階において、開通時期を繰り上げることによって、地方活性化のサポートが出来るのではないかという思いもあり、平成30年度開通予定を皆様のご支援をいただいて2年繰り上げの平成28年度開通を目指す、私どもの考えを示してまいりました。この28年度は関係機関・地域の皆様方の協力を頂ければ可能と思っております。

前原国土交通省大臣の12月4日の記者会見を拝見しました。要約すると3つあったかなと思います。まず、必要な幹線道路は必ず整備していくんだという宣言。2つ目は、必要性の判断基準としてのB/C、つまり利便と輸送にかかる費用のうち、利便についての定義を拡大する、例えばリダンダンシー、災害時や緊急医療に使える、加えて一部観光といったことも触れられたわけでありました。最後に、観光が非常に大事であり大きな力点をおかれるということを宣言されました。これは我々にとって後押しをしていただける考えだと思っております。今日起工する新名神高速道路は、観光名所でもある神戸・大阪・京都といった主要都市を通ります。観光以外でも、新名神が出来ることにより、典型的な渋滞箇所の宝塚トンネルの渋滞が相当緩和されると思っております。

道路は早期に整備しネットワークになることでその効果を発揮いたします。私共NEXCO西日本は、関連自治体との協力体制をより一層強化し、お約束したとおりの早期完成を目指して邁進してまいります。

最後になりましたが、沿線地域の皆様のご発展を祈願するとともに、施工各社とともに無事故・無災害での工事完成を決意し、私の挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

兵庫県知事 井戸 敏三氏 挨拶

新名神に対する期待は極めて大きい



中国自動車道では年間約630回の渋滞が発生しており、これは上り下りで毎日渋滞が発生している状況にあると言ってもいい状況です。この中国自動車道における渋滞解消を図るためのバイパスとなること、新名神高速道路 高槻～神戸間の役割であろうと思っております。新名神高速道路がこのバイパス機能を完全に果たして頂く、しかも2年前倒しを睨んで、平成28年度を目指していくこととありますので、地域の者として、大変期待をし、合わせて努力をしていかなければならないと、改めて決意をしているところであります。

兵庫県では、用地取得の委託を受け、地権者の皆様や関係者の皆様の協力を得ながら、懸命の努力をさせて頂いております。私、こういう時に歌を詠ませて頂くことにしております。

『厳しくも ようやく来たり 冬景色 地域の期待 新名神いく』
平成28年の早期開通を心より期待しております。

大阪府副知事 小河 保之氏 挨拶

新名神は「日本の背骨」社会経済活動の基盤として重要



橋下知事は残念ながら出席できませんでしたが、この新名神に関しましては本当に熱い思いを持っておりまして、井戸知事とも手を携えて頑張りたいと言っております。私自身も新名神が第二名神と言っていた時に携わっており新名神早期供用を心より願っております。

知事の挨拶文を代読させていただきます。「新名神高速道路は、国土軸を成す、いわゆる「日本の背骨」であり、我が国の社会経済活動の基盤として重要な役割を担う路線です。大阪府では、アジアの成長センターとして、戦略的な都市構想を練っております。関西国際空港のツインハブ化や高速道路ネットワークなど既存ストックの活用、咲洲・南港地区の新たな街づくりなど大阪・関西を元気にするために挑戦しています。今後とも都市整備行政始め、大阪府政の推進にご協力お願い申し上げ、本事業の1日も早い完成と工事の安全を祈念致します。」

国土幹線軸の強化は経済界にとっても大変に心強い

本日、新名神高速道路（高槻～神戸間）の起工式を迎えられましたことは、誠に喜ばしく、関西経済界を代表してお祝い申し上げます。

経済がグローバル化し各国が国際競争力を競い合うなかで、関西においても、関西国際空港の2期滑走路が限定供用され、また阪神港にてスーパー中枢港湾としての整備が着実に進められています。これらの国際物流機能を最大限に活用していくことが、関西のみならず日本の将来発展の命運を左右するといっても過言ではありません。この様な時期に、関西圏はもとより西日本広域の人やモノの流れを支える'いわゆる国土幹線軸'の強化が図られることは、経済界にとりまして大変に心強いかがりです。

今回着工する高槻～神戸間には、名神高速道路の茨木～吹田間、中国自動車道の宝塚～西宮間といった日本一ないしそれに準ずる高い交通量を担う日本の物流動脈の要所があり渋滞が慢性化しています。これは京阪神の3大都市間に国土幹線軸以外に十分に高速道路が整備されていないために、本来は広域輸送に特化すべき国土幹線軸が、地方道路の担うべき都市間連絡機能をも兼ねることとなっていることが原因ですが、今回の工事で広域専用ルートが確保され、両者の棲み分けがなされることで、どちらにも大幅な改善が期待されます。企業物流のニーズに応え、国際物流拠点を活用する上でも、新名神高速道路（高槻～神戸間）の早期完成を願ってやみません。

関西経済界としても、関西高速道路のミッシングリンクの整備促進に取り組んで参ります。是非、地域一丸となって頑張りましょう！

NEXCOWest日本関西支社 支社長 牧浦 信一 工事状況報告

地元の皆様と情報共有に努め、ご理解を得ながら取組む

この度、関係各位の絶大なるご支援とご協力により、本区間の起工式を開催する運びになりましたことを厚くお礼申し上げます。

新名神（高槻～神戸間）に並行する現在の名神・中国道は、国内でも有数の渋滞ポイントで、渋滞が上下線で年間約780回発生しています。また、名神・中国道の抱える課題として、老朽化があります。名神（栗東～尼崎間）は、日本初の高速道路として昭和38年に開通し、46年が経過しました。中国道の吹田から宝塚間は、昭和45年の大阪万博に合わせ開通しており、こちらも39年が経過しています。車両の大型化、交通量の増加などもあり、高速道路の痛みは激しく、毎年リフレッシュ工事を実施させていただいておりますが、集中工事方式では抜本的な改修工事は困難な状況です。そのため、名神・中国道と交通機能を相互に補完し定時性・安定性の向上や関西の高速道路ネットワークの強化を図り、産業・文化・社会経済の振興に貢献することが期待される新名神の1日も早い完成が待たれています。

新名神高速道路（高槻～神戸間）の事業の状況について説明させていただきます。皆様のご多大なるご支援とご協力のもと、11月末時点で事業用地幅の確定に必要な協議を約9割完了させる事が出来ました。協議完了後、幅杭の設置が終了した地区より、順次、大阪府土地開発公社・兵庫県土地開発公社・神戸市土地開発公社の皆様のお力をお借りして、用地取得を開始し、現在約2割の取得に至っております。関係者のご理解とご協力の下、平成22年度中に用地取得を全線で概成するため、引続き全力を注いでまいります。

用地取得の進展にともない、工事に長期間を要する箇所や、工事の段取のため先行着手する必要箇所について、工事発注を実施し、この度現地において工事に着手する運びとなりました。大阪府域では、茨木市域に本線工事として「新名神高速道路 下音羽工事」、兵庫県域では、宝塚市域に橋梁工事として「新名神高速道路 川下川橋工事」でございます。さらに、今年度末に向け2件の工事発注を計画しております。

本区間は平成30年度内完成と位置づけられておりますが、弊社は関係機関・地域の皆様のご協力が得られれば2年前倒しの平成28年度内完成が可能と考えており、引続き目標達成に向け、全力で取り組んでまいります。目標の実現には、関係機関や地域の皆様のご理解ご支援のもと、用地取得の早期完了と併せ、工事実施への地域の皆様のご理解が必要です。当社は、工事実施に当たりましては、地元の皆様と情報共有に努め、安全第一に進めると共に、地球温暖化による災害の激甚化にも対応した、高品質で耐久性に優れた高速道路を建設する事により、ライフサイクルコストの最小化やのり面の樹林化、再生可能エネルギーの導入による地球温暖化防止策などにも積極的に取り組んで参ります。

本日の起工式を契機に、新名神（高槻～神戸間）の早期開通に向けて着実かつ精力的に事業を推進してまいりますので、今後とも関係者の皆様の更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

